

国立医薬品食品衛生研究所 開所式 所長式辞

本日、ここに厚生労働副大臣、内閣総理大臣補佐官、神奈川県知事、川崎市市長、国土交通省関東地方整備局営繕部長、並びに数多くの関係者の皆様方のご出席を賜り、国立医薬品食品衛生研究所新庁舎開所の式典を挙行できますことは、私どもの大きな喜びであります。

国立医薬品食品衛生研究所のこのたびの移転の経過を振り返りますと、昭和 63 年の多極分散型国土形成促進法に基づく国の行政機関等の移転に関わる閣議決定により、前身の国立衛生試験所が移転対象機関となったことに始まります。この閣議決定を受け、平成元年に研究所は府中市に移転することとなりましたが、その後の経過の中で府中移転は計画の続行が困難になりました。そのような時に、川崎市より当地川崎市殿町地区への誘致のお話をいただきました。

国立医薬品食品衛生研究所は明治政府によって輸入医薬品の品質検査のために明治 7 年に設置された東京司薬場を起源とします。その後、食品の試験検査、生活衛生上の試験検査等、業務の範囲は広がり、すでに 140 年以上の歴史を歩んで参りましたが、一貫して医薬品等の医療製品、および食品や生活環境中にある化学物質のヒトへ

の影響について、その品質、安全性、有効性を科学的に正しく評価するための、試験・研究や調査（私どもはこれをレギュラトリーサイエンス研究と表現しておりますが）を行って参りました。一方で、成熟社会を迎えた我が国では、今日健康長寿社会の実現のための健康・医療戦略が国の施策として推進されており、私ども国立医薬品食品衛生研究所も、革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品の開発支援に向けたレギュラトリーサイエンスを中心テーマとして取り上げ、所内関連部署で関連研究を立ち上げております。

殿町地区（キングスカイフロント）は京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区の中心拠点であり、ライフサイエンス分野の研究開発拠点として発展を図っている地域であり、国立医薬品食品衛生研究所の今後の試験研究の展開には最適の地であることから、平成 24 年に移転地をこの殿町地区に変更させていただきました。以来、本日国会及び県議会・市議会等の業務でご多忙の中をご出席いただいている先生方の数多くのご指導、ご支援により、この規模の国の研究施設としては最速ともいえる約 5 年間で施設の設計、建設を行い、本日の開所式を迎えるに至りました。皆様からいただいたご指導、ご支援に心から感謝申し上げます。

このように、国立医薬品食品衛生研究所は 21 世紀の更なる展開に最適の地であるキングスカイフロントに新しい施設を建設させていただきましたが、まずは研究所創設以来一貫して取組んで参りました国民生活の安全確保、すなわち食とくらしの安全のための試験研究を維持、発展させていきます。また、同じく創設以来果たしております責務として、健康危機管理対応や国として不可欠な試験・検査には最優先に当たらせていただきます。加えて、我が国における医薬品・医療機器・再生医療等製品等の医療製品の開発支援に向けたレギュラトリーサイエンス試験研究を大きく展開し、キングスカイフロントをレギュラトリーサイエンス国内研究拠点にします。さらに、東京国際空港に隣接するという地の利を生かし、我が国のレギュラトリーサイエンスを国際発信するとともに、国際的に見ても代表的な研究拠点に発展させてゆく所存であります。

本日まで出席のご来賓の皆様方並びに関係者の皆様方におかれましては、当研究所の今後の発展に何卒ご支援、ご協力を下さいますよう、よろしくお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

平成 30 年 3 月 2 日 国立医薬品食品衛生研究所長 川西 徹